

被表彰者功績

被表彰者 (現職名)	功 績 内 容
いしだ かずよし 石田 和義 (59) (富山市立堀川小学校長) 	令和2年度に着任した富山市立上条小学校では、「子どもが楽しく、安心して通える学校」を目指す学校像に掲げ、子どもが主体的に学ぶための授業づくりを推進した。考えをもつ場や考えを関わらせる場の設定を工夫し、子どもの主体性を学校経営の基盤としながら特色ある学校づくりを推進した。 令和6年度に着任した富山市立堀川小学校では、学校現場や教育行政機関で培ってきた豊富な経験を生かし、長年引き継がれている校内研修を発展充実させるとともに、教職員の負担軽減策を実行するなど、教員の働き方改革を推進しており、教職員の在校等時間の削減という形で表れている。 令和6、7年度には、富山県小学校長会会長を務め、中学校長会との連携を図り、富山県教育委員会や市町村教育委員会と心をひとつにして、児童・生徒の健やかな成長に尽力している。さらに、安全・安心な学校づくりや教職員の資質向上、児童の学力向上等に向けた事業等を的確なリーダーシップを発揮し推進している。
みと ひでゆき 水戸 英之 (59) (高岡市立芳野中学校長) 	校長として、1 on 1 の対話を経営理念とし、個々の教師力・組織力の向上と働き方改革の推進に力を注ぎ、教育活動の充実と円滑な学校運営に取り組んだ。積極的対話を通して関係性を深めることで、タイムリーな情報共有の流れをつくること、また、相談、協議等がスムーズに行える雰囲気をつくり、円滑な業務遂行が行える組織体制の構築に努めた。 令和6、7年度には、富山県中学校長会会長を務め、積極的な対話を組織運営の柱とし、県内公立中学校の各校長から様々な意見を聞きながら課題を整理し、必要に応じて富山県教育委員会、高等学校校長協会をはじめとする関係機関とも協議を進め、積極的に改善を図っている。また、国の制度改革や県の新たな教育施策についての考え方、対応の在り方、今後の方向性等に関する情報を県内全公立中学校長で共有し、共通理解を図るなど校長会組織の連携体制の強化に努めるなど、本県中学校教育の振興・発展に尽力している。
ばんどめ ゆきお 番留 幸雄 (60) (富山県立富山高等学校長) 	令和2年4月に県立南砺福野高等学校長に着任し、南砺福光高校と再編統合した新高校が両校の伝統を引き継ぎながらスタートを切るための土台づくりに貢献するとともに、複合教育棟竣工の施設整備や新学習指導要領実施を見据えた教育課程の編成等、教育改革を推進した。 令和6年4月からは県立富山高等学校長に着任し、「学びたきもの集う」創校の精神のもと、文武両道を堅持し、創校140周年記念事業を主導するなど、生徒の更なる成長のために努めている。今秋に完成した多目的ホールの改築にあたっては、トレーニング設備や学習環境の整備に関して陣頭指揮を執るなど、着実に改革を推進しているほか、非認知能力の向上をねらいとした『富山高校で育む10の力』の指標を用いた教育活動を展開し、生徒の自立性、探究力等の育成に尽力している。 また、令和6年度より、富山県高等学校教育研究会会長、富山県高等学校校長協会副会長を務め、本県高等学校教育の充実・発展に大いに貢献している。